



なんでもねん

発行責任者 倉橋 忠



No.45

ウンコから 律令時代の貴族の暮らしを考える

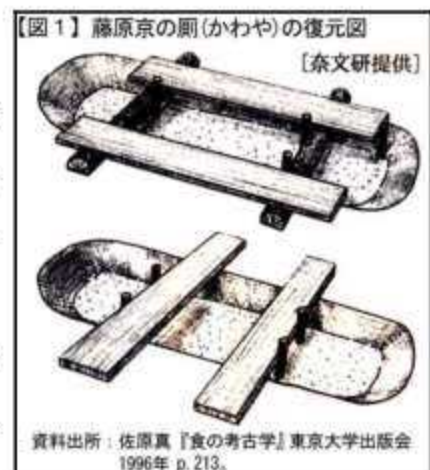
ウンコが教えてくれる健康状態と食べ物

お腹の健康状態を調べる方法に「^{けんべん}検便」がある。ウンコが私たちの健康状態を教えてくれる。ウンコは考古学でも人々の暮らしを証明するエースだ。もしも、遺跡からウンコが発見できれば、ほぼ確実な^{しやうこ}証拠が手に入る。けれども、ウンコは^{ゆうきぶつ}有機物なので長い年月の間に分解されてほとんど残らない。

ウンの良い時は、ウンコの中に、^{きせいちゅう}寄生虫の卵や動物の骨、植物の種子が残っていて、歴史的な時代の人々の食生活や健康状態を調べることができる。

貴族も寄生虫に悩まされた

1992年に藤原京の遺跡から1.6m×0.5m×深さ1m(推定)の穴が発見された。くみ取り式トイレの^{あと}痕だった(図1)。その穴の^{りょうたん}両端には2本ずつ木の^{くい}杭が打ち込まれていた。穴の底から大量の寄生虫(^{かいちゅう}回虫や^{べんちゅう}鞭虫、^{かん}肝^{きゅうちゅう}吸虫、^{よこかわきゅうちゅう}横川吸虫)の卵^{*}と^{ひんけつ}籌木(ちゅうぎ)が同時に発見されたので、トイレ・厠(かわや)跡だと結論づけられた。多くの寄生虫を体に宿していたので腹痛や貧血に



悩んだ様子がうかがえる。律令時代の貴族は、ぜいたくな食事をしていたが、今日の私たちの健康的な生活と比べれば、かなりつらい不健康な日常だったようである。

ちなみに、50cmの幅をまたいで用を足すことは難しいので、板をわたして利用したと考えられるが、縦に使ったのか、横に使ったのか、厠の向きは結論が出ていない。

藤原京の水洗トイレは問題になった

昔のトイレといえば、くみ取り式の「ボットン便所」のイメージが強い。ところが、古代にはすでに水洗トイレがあった。藤原京や平城京では、道路脇を流れる溝を自宅に引き込み、水流の上で用を足したと考えられる遺構が見つまっている(図2、図3)。

*1 金原正明「自然科学からみたトイレ文化」大田区郷土博物館編『トイレの考古学』東京美術 1997年 p.201。

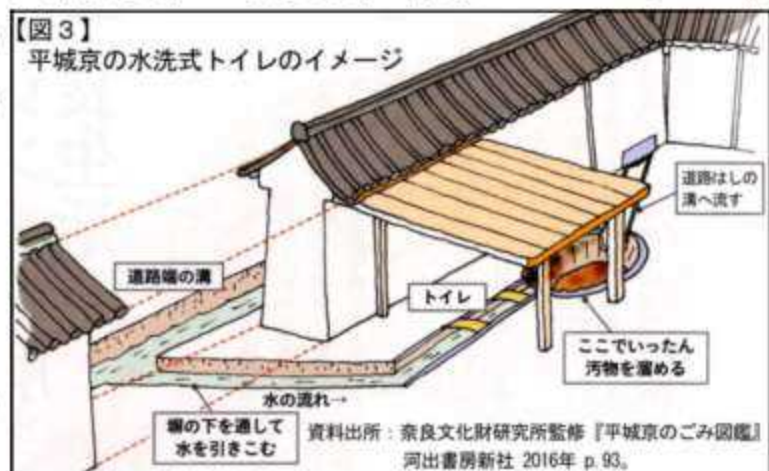
しかし、この水洗トイレが大きな問題を生み出した。奈良盆地の中を流れる川にウンコとシッコがそのまま垂れ流されると、いつしか猛烈な匂い^{もうれつにおただよ}が漂うことがあったであろうと想像できる。

特に、大極殿や内裏^{だいごくてん だいり}が都の中央にあった藤原京では深刻な問題になったようだ。

北側(上流)の民家のウンコやシッコ^{にお}が匂い^{はな}を放ちながら、大極殿や内裏に流れ込んだのだ。706年(慶雲3年)に、文武天皇は詔を出して「京(藤原京)の内外にけがれた悪臭^{あくしゅう}があるという。これらはまことに担当の役所が取締りを行わないからである。今後は式部省・兵部省の二省・五府(左右衛士・左右兵衛・衛門)がそれぞれ官人と衛士を遣わし、厳しく違反者を拘束^{きうさく}し、その行為にに応じて罰を加えよ」²と、政府の役人と兵士で取り締まるよう命じている。

よほど深刻な状況だったと思われる。

それ以後の都では、大極殿や内裏^{だいり}は最も北側に配置されるようになる。これは、隠された事情と言ってもいいだろう。



トイレトペーパーのない時代は「痛かった」？

古代の人たちはトイレの後、何でお尻を拭いたのだろうか？ トイレトペーパーのない時代は、様々なものでお尻を拭いたようであるが、一般的には、細長く割った木切れでお尻を拭いた³。それを簀木(ちゅうぎ)(図4)と言う。全国の古代遺跡から簀木が発掘されている。

たとえ、貴族であってもウンコをした後は大変だったのだ。律令時代のトイレから悲鳴^{ひめい}が聞こえてきそうだ。

簀木の材料は、調や庸^{にふだ}の荷札として使われた木簡を縦に割って再利用したものも発見されている⁴。



*2 宇治谷孟『続日本紀(上)全現代語訳』講談社学術文庫 1992年 p.82。

*3 昭和40年代でも山村で利用されていた。齊藤たま『落とし紙以前』論創社 2005年p.150。

*4 奈良文化財研究所監修『平城京のごみ図鑑』河出書房新社 2016年 p.75、p.91。